



令和6年11月1日現在	
世帯数	: 855世帯
人口	: 1488人
男	: 705人
女	: 783人

日本のデジタル化の目標は

日本では教育のデジタル化も含め、マイナンバーカード使用の多用途化を推進しています。

ただデジタル化は万能なのか、そこにはほころびが出てきたのではないか?と思います。

例えば、新聞によると「デジタル化先進国のスウェーデンでは、一人1台学習用端末を配備してデジタル教材へ移行が進んでいます。しかし子供の学力に変化が生じ、落ち込みが目立つようになっていくとの事。その改革の為、今では科学的根拠を基に正しい学習のあり方へ軌道修正している。」そうです。

現代はデジタル化が流行りですが、万能とはいえないかなってきいているのではないかなと思います。

教育という観点から、団塊世代はアナログ、紙の教科書のみでした。声を出して読み、

重要な部分を整理しノートに書き、覚えてきました。

仕事の関係ではデジタル化の必要があり、小学生もパソコンを使い始め、通算して、約40年となります。

しかし、最近パソコン無しで文章を書いてみようとする、なかなか漢字が出てこない、特に同音語の漢字は浮かんで来ない、昔はもつと書けたのと思うことが増えてきたのです。「年のせいだ」、それもあると思います。

生活の中で書くことが少なくなっているが、何か行動を起こす場合、提出する書類を書くという手続、本人確認が求められています、納税等種類によればデジタルで完了する事も増えてきています。

今からでもこれからの生活に欠かせない、書くという点と、一方デジタルの便利な点、必要な点これを求めて、何が

良いのか追求していかなければならないと考えます。

従来から、政治家は新人の時、理想に燃えて活動してきたと思われ、に、いつの間にか、政治資金は国民の税金から頂いていると言う感覚が麻痺し、政治をするには金が掛かるという事に慣れ、アバウトを求めているのではないか。デジタルで一線を引けるようになればいいのにな、と思います。

今回の衆議院選挙では与党が過半数割れと、国民の怒りがあったという結果となりました。ただ政治家の皆さんには、安定して改革を続けるよう実行力を発揮する事が義務と考えるべきであります。

一方で学習用端末は、小中は義務教育だから国が用意する。しかし高校は対象外であるとの事。そのため費用負担は、県あるいは保護者となり、教育の無償化という話と裏腹に負担が増しているとの事です。

日本のデジタル化は費用も含め、官民の組織横断で日本の総合力を持って、進めなければ日本沈没などということ、起きてしまうのではと、いらぬ心配をしてみています。

Presented by
視聴覚委員会



まちかどフォト



第一地区公民館事業
「乗鞍ウォーキング」
にて偶然撮影できた
ライチョウ



松本ぼんぼん



セイジ・オザワ
松本フェスティバル

自分で料理する男性は〇〇パーセント? ～第一地区公民館「男の料理教室」～

突然ですがこの記事を読んでいる男性の皆さん! ご自身で料理はされていますか?

ジェンダーレスが叫ばれる昨今、「男性はあまり自分で料理をしない」という考え方は、いかにもステレオタイプで時代錯誤な気もしますが、株式会社マーケティングセンターが今年4月に行った調査によると、「自分で料理をする」と回答した男性は既婚未婚ともなんと70%弱だそうです。(未婚男性の方が、若干割合は高いようですが) この結果をどう受け止める

かは人によって違うと思いますが、それでも女性の回答結果は未婚者75%、既婚者はほぼ100% (!) だそうですので、まだまだ料理が苦手な男性が比較的多いのかな、という印象です。

そこで第一地区公民館では、男性にももっと料理に慣れ親しんでもらおうということで、「男の料理教室」を開催しています。今年度は全4回の講座を予定しており、和食、中華、韓国料理とバラエティ豊かなメニューを参加者で協力しながら楽しく調理しています。直近で言うと、10月24日(木)に行われた第3回講座では、韓国の家庭料理



というところでベジタブルビーンバとジャガイモのチヂミを調理しました。どちらも簡単に作れてとても美味しくヘルシー、すぐにでも自宅で作ってみたいくなるメニューでした。後日、参加された方の奥様にお話を伺うと、「それまでは、あまり自宅で料理をすることはなかったが、先日教室で習った料理を実際に作ってくれて、とても美味しかった」と嬉しそうにお話していました。

また講座中の雰囲気



も良く、料理自体だけでなく料理中や試食の時間でのおしゃべりも楽しみのひとつになっています。

今回の「男の料理教室」は令和7年1月23日(木)に開催予定です。詳細は第一地区地域だより1月号や松本市ホームページにて12月下旬ごろお知らせしますので、初めての方もぜひお気軽にご参加ください。



電車通り

アメリカの映画賞第96回アカデミー賞で山崎貴監督(松本市出身)の「ゴジラ1.0」が視覚効果賞を受賞。山崎監督は昭和29年公開時に初代ゴジラを見た人が感じた怖さを現代の人に感じてもらうよう意識したと話し、VFXで表現したゴジラの恐怖感や絶望感が貢献し、そこが評価されたと話しています。映画は戦争と核兵器の象徴でもあるゴジラを何とか、打ち止める話です。その映画を大スクリーン、大音響設備の映画館で見て迫力満点で圧倒されました。これから山崎監督、大いに期待です。

次に今度は米テレビ界で最高の栄誉とされる第76回エミー賞で日本の戦国時代が舞台のアメリカ配信ドラマ「SHOGUN・将軍」がドラマ部門作品賞を受賞し、また真田広之さんが主演男優賞受賞など、なんと18冠に輝きました。関ヶ原の戦い前夜の日本を舞台に、武將らの人間ドラマを描いている由。2度続けて日本に関する映画とテレビドラマが受賞したことは大変な名誉です。早くそのテレビドラマを見たいものです。